

学校現場における病気を抱える子どもたちの

教育支援を考えるシンポジウム

岡山県内の小学校・高等学校および特別支援学校を対象としたアンケート調査から



病気を抱える子どもたちの教育を守るために

京都女子大学 発達教育学部

特別支援教育分野 教授 **滝川 国芳** 先生

大学での特別支援学校教員養成では、特別支援教育の基礎理論や病弱教育を担当。研究テーマは、特別支援教育における教育課程、ICT活用など。認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク運営委員や、博報堂教育財団博報賞（特別支援教育部門）審査委員など、幅広い分野に携わっている。



病気の子どもたちを取り巻く現状と課題

大阪教育大学 教育学部

特別支援教育部門 准教授 **平賀 健太郎** 先生

教員養成系大学で病弱教育コースの担当。大学生ボランティアと共に病気の子どもやその家族を支える様々な学習支援・心理社会的支援活動を行っている。主な研究テーマは、入院治療終了後の復学支援、病気の子どものストレスコーピング等。



アンケート調査報告と今後の支援活動について

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

代表理事（長期療養経験者） **三好 祐也** 氏

5歳で慢性ネフローゼ症候群を発症し、義務教育のほとんどを岡山大学病院（院内学級）で過ごす。その経験から母校の院内学級で学習支援ボランティア活動を始め、岡山大学大学院で病弱教育を研究。2015年にNPO法人ポケットサポート設立。座右の銘は「病気だけど誰より元気！」

学校現場の先生方にご協力いただきアンケート調査をした結果から見てきた岡山県内の病気を抱える子どもたちの教育支援における課題やニーズは何か。2名の講師とポケットサポート代表の三好がトークセッション形式で考える。

開催日時 2021年2月28日（日）13時～16時30分

会場 オンライン開催 YouTube ライブ配信（事前に参加申込が必要）

参加費 参加無料（定員300名） ※ネット接続できるパソコン・タブレットをご準備下さい。

主催：認定特定非営利活動法人ポケットサポート（公益財団法人ベネッセこども基金の助成により開催します）
後援：岡山大学教育学部、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、公益財団法人岡山県医師会、公益財団法人岡山県看護協会、一般社団法人岡山県薬剤師会、SDGs ネットワークおかやま

お問い合わせ

ポケットサポート事務局（所在地：岡山市北区奥田本町22-2）

イベント詳細ページ

<https://www.pokesapo.com/sym21>



タイムスケジュール

13:00～13:10
開会挨拶・登壇者紹介
岡山大学教育学部 教授 大守 伊織 先生

13:10～13:50 Talk 1 (40分)

アンケート調査報告と 今後の支援活動について

・認定 NPO 法人ポケットサポート 三好 祐也

休憩 (10分) CMなどを配信予定

14:00～15:00 Talk 2 (60分)

病気の子どもたちを 取り巻く現状と課題

・大阪教育大学 教育学部 特別支援教育部門
准教授 平賀 健太郎 先生

休憩 (10分) CMなどを配信予定

15:10～16:10 Talk 3 (60分)

病気を抱える子どもたちの 教育を守るために

・京都女子大学 発達教育学部 特別支援教育分野
教授 滝川 国芳 先生

休憩 (5分) CMなどを配信予定

16:15～16:30 振り返りトーク (15分)

【ゲスト】

・公益財団法人ベネッセこども基金
助成担当 青木 智宏 氏

16:30～16:40

閉会挨拶・参加者アンケートのお願い

イベント当日は YouTube ライブ配信チャットにて
視聴者からの質問も受け付けます。今回の調査結果が
病気を抱える子どもたちの全国的な教育支援拡充に
つながるよう、多数のご参加をお待ちしております。

YouTube ライブ配信の参加申込方法

下記のイベント詳細ページの URL 直接入力もしくは
「ポケットサポート」で検索して
申込フォームから事前に参加申込をお願いします。
後日、YouTube 視聴用の URL をお送りします。

▼イベント詳細・参加申込フォーム

<https://www.pokesapo.com/sym21>

ポケットサポート



お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

電話：086-289-8528 (事務局)

F A X：020-4664-2175 担当：奥田

メール：info@pokesapo.com

ポケットサポートが目指す社会

**病気を抱える子どもたちが
将来に希望を持ち
自分らしく暮らせる社会**

1. 環境をつくる

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 生きる力を育む

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 人や気持ちをつなぐ

病気の子どもに関わる人をつなぐコーディネートを行うと
共に社会への理解啓発により支援者を増やしていく

